

特集：安心・安全な社会に貢献する教育システム

防災教育への展開を目指した行動意思決定モデルの検討

田中 孝治*

Constructing a Decision Making Model and Expanding It into Disaster Education

Koji TANAKA*

In the study field of disaster education, it is indicated that the opportunities of being interest at a decision-making process in disaster prevention behavior were increasing. First, this paper reviews some previous studies about psychological theories, disaster prevention behavior models based on the theories, and an emergency decision making model from perspective of human information processing as a theoretical framework for predicting human behavior. In addition, the paper reviews some human cognitive characteristics distorting understanding and interpretation of disaster information. Second, the author proposes a new decision making model referring to these theoretical frameworks and explain the model with reference to some evacuation behavior studies. Finally, the author tries to expand the model for applying it to evacuation drills.

キーワード：意思決定モデル，心理学，災害情報学，防災教育

1. はじめに

防災行動を含め、行動が伴う知識を教授する教育者の多くが、学習者が訓練の場面では学んだ知識に基づく行動をとっているが、実際の場面では知識とは異なる行動をとるといった現状に苛まれている。知識が行動に直接結び付いていないことは、経験的にも明らかであるにもかかわらず、知識と行動の間に介在するさまざまな心理的・認知的要因を考慮せずに、単に刺激（例えば、校内放送による避難情報）と反応（校庭などの一時避難場所への避難）を繰り返す防災教育の設計は少なくない。刺激反応間の法則性に目を向けた行動主義から、刺激反応間の法則性に対する内部プロセス（認知プロセス）の推定に目を向けた認知主義へとパラダイムシフトが起こったときのように、防災教育においても、防災行動における意思決定の認知プロセスに目を向ける機運が高まりを見せている。

これまでも、人間の行動を予測する心理学理論は数多く提唱されているが、心理学領域の理論研究と防災教育領域の実践研究の相互補完的な結び付きが十分であるとは言いがたい。理論研究から得られる理論知が教育実践に貢献し、実践研究から得られる実践知が理論研究の発展を刺激するような相互補完的な結び付きを強めるためには、学習や教授法に関する蓄積・統合された知識ベースが必要である⁽¹⁾⁽²⁾。この知識ベースの構築には、まずは両者の知見の整理が必要である。防災教育に関する実践知については、光原の解説論文⁽³⁾に整理されている。そこで本稿では、防災行動に関する理論知について整理することを目的の一つとする。

本稿の構成は、以下のとおりである。はじめに、人間の行動を予測する理論的枠組みとして、行動を予測する心理学理論、心理学理論を援用した防災行動モデル、および、人間の情報処理過程から緊急時の意思決

* 北陸先端科学技術大学院大学知識科学系 (School of Knowledge Science, JAIST)